

西武文理大学 発！

メディアイベントの運営を肌で感じとる学び

「東京国際映画祭」

令和5年10月23日～11月1日に第36回東京国際映画祭が開催されました。

今年も **西武文理大学の学生（140名参加）、そして西武学園文理高等学校の5名（高大連携で参加）** がインターンとして東京国際映画祭のチケット認証、劇場運営、進行補助、ウェブ管理、空港でのゲストアテンド、オープニングレッドカーペット、イベント運営、チェアマン付き秘書、ボランティア管理等から清掃・ゴミ処理まで、映画祭になくてはならない業務を体験しました。そして学内では体験できない **社会でのチームワークの大切さ、ホスピタリティの重要性** を肌で感じ取り、有意義な時間を過ごすことができました。

東京国際映画祭のチェアマンの安藤裕康様の公式ブログにも紹介されました。

【安藤裕康のチェアマン日誌】



👉 左記のQRを読み取ってください。

10月29日（日）

インターン 200名弱は **西武文理大学** はじめ様々な学校から派遣された学生で、ボランティアは一般応募の中から選ばれた老若男女150人ほどである。彼らは、裏方として劇場での入場業務、海外ゲストの空港送迎、ウェブサイトやイベントのアシスト業務から清掃・ゴミ処理まで、映画祭になくてはならない業務を熱心に遂行してくれており、頭が下がる思いだ。

（文および写真は「安藤裕康のチェアマン日誌」より一部抜粋）



学生は今回のこの体験（様々な方との出会い、チームワークの一員として）を通じて **「自分だけでなく相手や第三者の視点を持つ大切さ」** に気がきます。

ここがポイント 東京国際映画祭は日本がオリンピックの次に格付けしているイベントになります。サービスとホスピタリティを学ぶ学生が仕事の中で各自が実践的に多様な経験をします。その経験を省察学修により各自がマイセオリーを紡ぎ出す点が学びの特徴になります。プロジェクトのゴールや仕事の質を高めることの意味をかけがえのない他者との関係から学ぶ点はホスピタリティの涵養につながっています。

「西武文理大学」は実践を通して上記の学びを修得する【ホスピタリティの学府】として、来年(令和6年)25周年を迎えます。

世界に通じるホスピタリティで社会を切り開く